

✦ ガバナーメッセージ

基本理念とプログラム — 再びクラブと地区の関係で —

国際ロータリー第2750地区 2008-09年度 ガバナー 新藤 信之



最近クラブから地区への声として、地区からクラブへの要請に対し「トップダウンだ」という声が聞こえて来ました。

今年度初めより、クラブが「良質なクラブ自治権」の下に、自主的な活動をするよう要請してきました。それは地区の唯一の目的がクラブを支援することであることを理由に、クラブこそが活動主体であることを強調したかったためです。

クラブ自治権については、「社会奉仕に関する1923年の声明」つまり23-34決議の5)にその内容が記されています。

①クラブは、どのような奉仕活動(注)をするかを選択する絶対的な権利を持っている。②但し、ロータリーの綱領を無視したり、RC結成の本来の目的を危うくする奉仕活動であってはいけない。③RIはクラブに対し奉仕活動に関する示唆を与えることがあっても、命じたり禁じたりしてはならない。という内容です。(注・この決議は社会奉仕活動に限定するものでないのが定説です)

翻って、決議1)で、ロータリーの基本理念を述べています。ロータリーは、一つの人生哲学であり、「超我の奉仕」という哲学を「最も奉仕するもの最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づき実現することを目指していること。更に、決議4)で、この2つのロータリーの基本理念を客観的な行動に表さなければならぬこと、奉仕の理論を実践に移さなければならぬことを説いています。

今年度、地区大会をGUAMで開催し、会長・幹事会での協議を経て、チューク州離島への海水蒸留水器設置プロジェクトを支援することを決議しました。京浜グループ8クラブからプロジェクトを実施するための寄付金の要請があります。また、昨年11月PBGをガバナー訪問した際、各クラブ指導者との協議の中で要請された、今抱えているいくつかの問題の中の具体的なプロジェクトを「Group For One」プログラムに基づきグループに報告しました。具体的には、トラックラグーンRCと京浜グループとの病院焼却炉プロジェクト、ガムRCと多摩中グループとの

中古自転車プロジェクトがあります。

この地区からの要請の仕方が、いくつかのクラブ会長さんに「トップダウン」の印象を与えているようです。誤解を解きたいと考えると同時に、今後ますます重要となる地区とクラブの基本的なあり方を再確認したいと考えます。

既に「プログラム」と「プロジェクト」の違いについては、ご理解いただいていると思います。今年度、奉仕プログラムを「RIプログラム」「地区プログラム」「試験的プログラム」の3つの範疇に分類致しました。クラブにとっては、プログラムは奉仕の枠組み、つまり選択対象となるメニューであり、クラブ年次計画との関係で、具体的なプロジェクトを立案・実施する際に、絶対的な選択の権利を持つものです。23-34決議の中のRIを地区と読み替えても良いと思います。クラブ自治権への意識の稀薄化は、ややもすると、地区からの要請を強制的なものを受け止めがちです。

地区やグループが提唱する奉仕活動に、必ずしもすべてのクラブが参加しなければならないとは限りません。各々のクラブには年間基本計画があります。活動予算もあります。すべてのクラブが参加したとしたら、その奉仕活動はこの上なくすばらしいものか、クラブ自治権の確立ができてないクラブが混在しているかどちらかです。

ロータリーの基本理念とプログラムの間には、ロータリー100年の深遠な歴史があります。

ここ数年のRI会長の強調事項はほとんど同じです。そしてそれは世界33,000余りのクラブの共通の懸念事項です。グローバル化された今、「社会」も地域社会を超えた地球的規模での奉仕活動を考慮に入れ、強調事項に挑戦すべきです。

広い意味で、チュークの「水」プログラムが「地区プログラム」となるか、期間限定の「試験的プログラム」と位置付けられるか、これからDLPに基づき検討されます。決まった段階で、クラブはどのように、いつ、このプログラムに参加するかは、そのクラブが自主的に判断することです。

◆ ガバナー月信の P.1 / P.2 (表裏) 1枚を会員に配布して下さい ◆

GML

INDEX

- ✦ ガバナーメッセージ
- ✦ ガバナー会の現況報告 (1.総論) ガバナー 新藤 信之
- ✦ 文庫通信 / 寄付報告 / 物故
- ✦ 出席報告 / 編集後記

<http://www.ri2750.org/>

✦ ガバナーからのお知らせ

久邇年度の地区協議会も終わり、いよいよ次年度に向けて、それぞれのクラブは四大奉仕部門に基づいた年次目標と長期目標を立てる時期となりました。クラブ管理運営に関する、クラブ指導者の意義ある引継ぎを是非実施して下さい。

地区は、引継ぎのために1)地区財務の問題 2)第3650地区との姉妹地区交流の問題 3)チューク州の水問題 4)新世代プログラムの問題 5)インターンシップ協定の問題 6)年次表彰の問題 7)ガバナー事務所の問題を中心に、地区の管理運営に関し、地区リーダーシップ・プランに基づき、ガバナー、ガバナーエレクト、ガバナー・ノミニーの3者会談を開催致しました。

(ロータリー章典17.030.1)

Guiding principles and program

- In relationship between the clubs and the district again -

As for the latest opinion from the club to the district, we have heard that the request to the club from the district is 'Top Down' approach. From the beginning of this year, the district has required that the club has made self-disciplines activities under the good quality autonomy. From the reason that the one objective of the district is to support the club, I emphasize the club is independent on the activity.

The club autonomy is described on the No.5 of 23-25 Resolution of 'Announcement in 1923 for the Community Services'. The club has an absolute right of to choose what kind of the service activities(*1) are carried out. But these service activities are not disregarded 'Object of Rotary' and compromised the original objectives at the club foundation. RI make a suggestion to the club about the service activities, but order or forbid the activities.

*1: This Resolution is a generally accepted opinion not to limit the Community Services activities.

On the contrary, Resolution 1) describes Fundamental Philosophy of the Rotary. Rotary is one of your life philosophies and aims to execute 'Service Above Self' based on the practical ethics principle that the best services make the most reward. Besides the Resolution 4) mentions that these two Fundamental Philosophies express objective action and shift to practice the theory of service.

This year the District Conference was held in Guam and we resolved to support an installation project of distilled water equipments from salt water for the isolated islands of the Chuuk State. 8 clubs of the Keihin Group has requested the donation to execute this project. And when the Governor visited PBG area last November, the Governor reported to the group as the 'Group for One' program that are some concrete projects of their current problems that are requested during meeting with each club leaders. Especially there are the incinerator st the hospital project between RC of Truk Lagoon and RC of Tokyo Keihin and used bicycle project between RC of Guam and RC of Tokyo Tama Chuo.

The way of request from the District makes an impression of 'Top Down' way from some club presidents. I think we want to clear up the misunderstanding and reconfirm the basic understanding among the District and the clubs that make important more and more.

I think you have already understood the difference between the Program and the Project. This year the Service Program makes three categories such as RI Program, District Program and Pilot Program respectively. As for club, the program is a structure of the service, that is to say, a menu of selection and absolute selection right at planning and executing

the detailed project in a relationship of the club annual plan. RI is changed to read as District on the Resolution 23-34. The thin consciousness of the club autonomy is apt to understand the request from the District is accepted forcibly. The service activities that the District and the Club sponsors are not needed to have all of clubs attended. Each club has his own fundamental annual plan and activity budget. If all of clubs attend, the wonderful service activities or non-established club autonomy are intermingled.

The Rotary has a 100 years profound history between a fundamental philosophy of the Rotary and the program. The emphasized things of RI President are almost same as the past for these years. And this is common concerns among about 33,000 clubs around the world. We have to think of the service activities as the global level above the 'Society' and the community when it is now globalized around the world.

In wide meaning, we study based on DLP that the Water program in Chuuk is the District program or it is a Pilot program in a limited period. When we decide it, the club voluntarily judges how and when the club attends this program.

✦ ガバナー会の現況報告 (1.総論)

ガバナー 新藤 信之

会長・幹事そして会員の皆様にとっては、ガバナー会については今までほとんど情報がなかったかと思います。ガバナー会は1967年、親睦と情報交換を目的とした日本ロータリー連絡委員会が発足の始まりです。そして今なお、RIから認められた組織ではありません。

ガバナー会の目的は、日本ロータリーの発展のために、各地区及びロータリークラブ諸活動に便宜を提供することですが、変化が激しい現在では、ガバナー会は協力して統一的ないろいろなことを決議しなければならない場面が多くなりました。このことで、RIの唯一の構成であるクラブを拘束するような決議も時になされるようになりました。

今年度のガバナー会は、年度当初より現に発生している問題を解決する方法を模索してきました。ガバナー会議長は第2580地区の櫻井権司氏です。今回、クラブレベルに全体的な問題を理解していただくために、先ず下記の記事を掲載させていただきます。次回6月号では、いくつかの具体的な問題を各論として取り上げます。

ガバナー会の現状とガバナー協議会の必要性

ガバナー会議長 櫻井 権司

ガバナー会とは、日本全国・34地区ガバナーが当該年度に参加する任意の会で、正式名称は「ガバナー会」と称します。当初は、同期ガバナーの親睦の会として発足したようで、いまでもRIから正式に認められた会ではありません。しかし、最近その役割は大変重要になってまいりました。と言いますのは、日本各地区のロータリー活動を見てみますと、①会員数の減少から地区財政が逼迫してきており、何とか34地区に係わる委員会活動の負担を軽減したい点、②ここ数年RIから推奨される案件が日本文化に照らし合わせるとそぐわない点が出てきていること、③国内外の災害発生時の緊急対応を連帯して行なうこと、④青少年交換の受け入れ等で学生の一括ビザ申請業務を行なうこと、⑤将来青少年交換事業すべてを保険で担保する問題等、現実的に各地区のガバナーが連帯し、可能であるならばエレクト、ノミニーが参加して継続しながら対処しなければならない問題点が多々出てまいりました。単なる親睦だけの会としては済まされない状況になってきたのであります。

ここで、全国34地区に係わるいろいろな会を見わたしてみますと、①ロータリーの友、②米山記念奨学会、③全国青少年交換委員会、④ロータリー文庫、⑤国際ロータリー日本青少年交換委員会(RIJYEC)があり、非公式なものとしては⑥ローターアクト全国大会、⑦ライラ全国大会とさまざまな会が立ち上がり、それぞれに地区の委員会と連携をとりながら活動しております。これらの会は、本来各クラブ、地区がそれぞれに係わり、管理監督すべきものでありますが、管理運営上は、地区単独で34地区それぞれ別々に係わっておりますと、委員会の役員の人選や資金の調達、適正な予算の運営などで不都合な点が出てきているのも事実であります。ガバナーは、そのような適正に機能していない問題点を充分把握し、対処しなければならないところまできていることは紛れのない事実であります。しかし、現実には公式訪問や、地区大会の開催、国際大会への参加などで忙しい毎日を送らざるを得ず、実際にこれらの業務に取り組む時間が取れないことも事実であります。過去、これらの委員会の運営に関しては、経験豊かなパストガバナー諸氏が永続的に役職に付かれ、委員会業務を行っていただいておりますが、基本的には該当年度のガバナーが意見を集約し、それらの委員会運営は、各地区の状況に沿った形で業務推進させることが本来の姿ではないかと考えるのであります。また、各地区のその年度の状況を把握し、毎年会員の負担を減らす改善をしていかなければ、それぞれの地区の財政は破綻してしまう可能性が出てまいりました。これは取

りも直さずロータリーの会員減少に繋がる由々しき問題であると理解されるのであります。会員数の大幅な減少の中で多くのクラブ・地区は予算作成に頭を悩ませておりますが、その中から前述の委員会にも以下のよな資金を拠出しております。ご承知とは思いますが羅列してみましょう。

◆地区より支払う分担金

ガバナー会運営費：	200円×会員数
ロータリー文庫：	300円×会員数
RIJYEC会費：	100円×会員数
平和フェロー支援金：	15円×会員数

◆クラブから直接支払うお金

ロータリーの友購読料	一人/年 2,520円
------------	-------------

日本ロータリアンの人数95,500人をかけて見てください、思いのほか大きな金額になっております。私たちロータリアンは、現在これだけ多くの資金を拠出して各委員会存続のために資金援助しているとも受け取れるのです。そして、各委員会では潤沢な積立金を所有しているところもございます。その内実は会員一人一人まったく理解してないことも事実です。やはり、資金の運用に関しては、各委員会の活動内容に対して予算付けし、決算内容を正確に監査しながら毎年改善していくことも必要であると考えます。2008～09年ガバナー会は改革を決議致しました。

ガバナーに就任して初めて出会う問題がたくさんありますが、公式訪問から始まり多くの事に時間を割かなければなりません。気付いた問題を毎年度の年度に先送りしてしまいますとロータリー変革する機会を失い、衰退するばかりです。

今年度ガバナー会は、このことを気が付いたときから改善しようと話し合い、問題には果敢に挑戦しようと決意致しました。そして、多くの問題が抽出され、それぞれの問題ごとに作業部会を設けて、問題点の把握とその解決策を探って参りました。

問題の解決に至るまでには、まだまだ時間が必要です。しかし、今年度ガバナーはあと僅かで終了してしまいます。改善できなかった点は、次年度ガバナーエレクトにその夢を託して行きたいと思っております。どうかこの点をご理解頂き、次年度ガバナーの皆様には、日本のロータリーが益々発展するように、会員増強できる基盤の整備をしていただく、ご理解を切に願うところであります。そのために、私たち今年度ガバナー会では、「ガバナー協議会」の設置を提案いたしました。日本ロータリーが世界から忘れ去られないように、クラブと共に地区、日本ロータリーにも活力を取り戻したいと思っております。

「2009-10年度 地区協議会」開催

2009-10年度 地区協議会は、久邇邦昭ガバナー・エレクトの所属である東京南ロータリー・クラブがホスト・クラブとして4月21日(火)ハイアット リージェンシー東京[新宿]にて開催されました。(当日の参加者は総勢700名以上の参集)

協議会の7つのテーマ別分科会では、各委員会の活動の説明やクラブ委員長の責務に関しての勉強・討議などが行なわれました。

新藤ガバナーから久邇ガバナーへのバトン渡しによって、第2750地区の更なるクラブ活性化と奉仕活動の充実を目指して、2009-10年度の準備が整いました。

[地区協議会の詳しい内容は、次号の地区ホームページに掲載予定です。]



米山功労者ご紹介

ご協力感谢您致します

米山功労者	鈴木 昭樹君	東京築地	09.3.10	1
	根本 勲君	東京白金	09.3.11	3
	鈴木 秀男君	東京八王子北	09.3.18	1
	石綿 勝君	東京成城	09.3.19	1
	藤原 秀樹君	東京大井	09.3.25	1
	永山 治君	東京銀座	09.3.26	1
	伊野 茂君	東京多摩	09.3.27	5
	司 葉子君	東京恵比寿	09.3.31	5
	野崎 正史君	東京恵比寿	09.3.31	10

ポール・ハリス・フェローご紹介

◎はマルチプル
ご協力感谢您致します

◎	池田 昌樹君	東京成城新	09.3.6
◎	加藤 イサム君	東京成城新	09.3.6
	宿谷 勝巳君	東京成城新	09.3.6
◎	高野 隆夫君	東京多摩	09.3.6
◎	篠塚 武雄君	東京多摩	09.3.6
	若月 啓功君	東京国分寺	09.3.13
	木村 紀一君	東京大井	09.3.27
	堀口 昇治君	東京西	09.3.27
	大久保 泉君	東京西	09.3.27
◎	藤井 達磨君	東京多摩	09.3.27
	伊東 正文君	東京たまがわ	09.3.27
	眞田 順司君	東京小金井さくら	09.3.31
	林 清一君	東京調布	09.3.31
	田辺 一男君	東京調布	09.3.31

新ベネファクターご紹介

ご協力感谢您致します

	竹内 彪衛君	東京日本橋東	09.3.20
	浅川 博道君	東京みなと	09.3.27
	岡田 恭彦君	東京みなと	09.3.27
	杉平 忠久君	東京銀座新	09.3.31
	三田 友一君	東京国立しろうめ	09.3.31

文庫通信 (259号)

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、2万余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

— 各地区ガバナー月信より —

- ◎「ようこそロータリーへ」
濱田五左衛門 2009 3p(D.2800)
- ◎「例会とロータリーの原理原則」
安孫子貞夫 2009 1p(D.2800)
- ◎「ロータリーの根本を考える」
井上暎夫 2009 3p(D.2660)
- ◎「Stigma 恥辱の烙印」
塚原房樹 2009 2p(D.2510)
- ◎「職業と奉仕」
近藤雅臣 2009 2p(D.2660)
- ◎「ロータリーの職業倫理訓逐条解説(7)~(9)」
青木伸翁 2009 3p(D.2770)
- ◎「識字率向上は世界平和への道」
諏訪昭登 2009 2p(D.2710)
- ◎「『ロータリーの森』とその後」
好川嘉則 2009 1p(D.2650)

[上記申込先：ロータリー文庫 (コピー/PDF)]

ロータリー



文庫

〒105-0011

東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F

TEL(03)3433-6456 FAX(03)3459-7506

<http://www.rotary-bunko.gr.jp>

開館=午前10時~午後5時 休館=土・日・祝祭日

深く哀悼の意を表し御冥福を祈ります



松井 道彦(東京新橋RC)

2009年3月23日逝去(享年63歳)

1993年1月26日入会

2007-08年度 クラブ会長

ベネファクター

★国際ロータリー第2750地区出席報告(3月分)★
District 2750 Membership Attendance Report March 2009

区分	クラブ名	例会	出席率	会 員 数			区分	クラブ名	例会	出席率	会 員 数		
				08年7月1日	09年3月末	増減					08年7月1日	09年3月末	増減
千代田グループ	東京南	4	78.34	179	178	-1	多摩南グループ	東京八王子	4	93.46	60	63	3
	東京芝	4	92.79	95	93	-2		東京町田	3	81.44	61	59	-2
	東京新橋	4	76.60	54	57	3		東京日野	4	81.89	43	41	-2
	東京赤坂	3	75.54	54	51	-3		東京八王子西	3	84.78	68	70	2
	東京みなと	5	84.08	52	54	2		東京町田・中	4	76.52	40	40	0
	東京レインボー	4	83.98	48	43	-5		東京八王子東	4	94.16	31	30	-1
銀座・日本橋グループ	東京麻布	2	76.20	22	23	1	東京八王子南	4	88.89	56	59	3	
	東京銀座	4	76.52	162	167	5	東京町田サルビア	4	98.80	27	26	-1	
	東京日本橋	5	79.69	174	180	6	東京飛火野	5	81.24	32	32	0	
	東京築地	4	85.80	70	67	-3	東京町田東	4	71.67	31	31	0	
	東京日本橋東	4	81.31	54	53	-1	東京八王子北	5	71.62	33	32	-1	
	東京中央	4	78.90	230	244	14	東京立川	3	93.36	88	89	1	
京浜グループ	東京日本橋西	4	82.49	49	51	2	東京小金井	4	97.14	40	35	-5	
	東京銀座新	3	76.91	76	74	-2	東京国分寺	4	98.89	54	53	-1	
	東京シティ日本橋	3	71.52	50	51	1	東京三鷹	5	91.40	48	45	-3	
	東京中央新	5	64.50	38	39	1	東京昭島	4	85.69	50	50	0	
	東京羽田	3	84.29	45	50	5	東京国立	4	98.50	56	57	1	
	東京大森	4	96.38	52	53	1	東京立川こぶし	4	85.31	85	86	1	
山の手東グループ	東京品川中央	4	86.83	44	56	12	東京井の頭	5	85.20	25	27	2	
	東京田園調布	3	85.37	46	50	4	東京昭島中央	4	80.00	31	36	5	
	東京蒲田	4	93.41	60	60	0	東京武蔵国分寺	4	92.85	57	54	-3	
	(東京荏原かめりあ)	-	—	(12)	(0)	(-12)	東京小金井さくら	3	74.90	22	23	1	
	東京田園調布緑	5	79.71	23	25	2	東京国立白うめ	5	77.00	25	23	-2	
	東京品川	4	82.70	67	66	-1	東京府中	4	86.88	65	65	0	
	東京大井	5	82.10	17	19	2	東京調布	5	79.41	69	66	-3	
	東京港南	4	67.50	19	20	1	東京多摩	5	75.17	25	29	4	
	東京大崎	3	90.85	33	37	4	東京狛江	3	80.00	34	32	-2	
	東京京浜	3	82.15	23	23	0	東京稲城	5	80.88	35	35	0	
	東京マリーン	4	72.37	18	19	1	東京武蔵府中	3	79.52	52	55	3	
	東京白金	5	83.24	33	32	-1	東京たまがわ	5	78.15	26	26	0	
	東京高輪	2	85.00	28	29	1	東京多摩グリーン	3	77.84	32	36	4	
	山の手西グループ	東京京西	3	86.60	157	151	-6	東京調布むらさき	3	84.94	79	84	5
東京城西		4	75.97	75	83	8	Guam	4	45.96	63	70	7	
東京西南		5	87.19	59	58	-1	Saipan	5	69.00	45	48	3	
東京原宿		5	79.03	31	32	1	Tumon Bay	5	53.51	96	96	0	
東京杉並		4	79.73	44	44	0	Northern Guam	—	—	34	36	2	
東京神宮		3	66.45	40	40	0	Pohnpei	—	—	20	20	0	
東京恵比寿		5	75.90	100	101	1	Palau	4	75.00	16	16	0	
東京広尾		4	71.55	32	29	-3	Guam-Sunrise	5	59.06	34	34	0	
東京渋谷		4	75.00	45	41	-4	Truk Lagoon	—	—	7	10	3	
東京六本木		5	78.00	52	54	2	国内82クラブ計			4,478	4,544	66	
山の手西グループ	東京世田谷	4	87.04	49	65	16	地区91クラブ計			4,793	4,874	81	
	東京目黒	4	85.63	48	47	-1	千代田グループ	81.08	多摩南グループ	84.04			
	東京成城	5	87.50	25	25	0	銀座・日本橋グループ	77.52	多摩中グループ	88.35			
	東京世田谷南	5	83.00	92	93	1	京浜グループ	83.71	多摩東グループ	80.31			
	東京城南	2	39.00	28	28	0	山の手東グループ	77.54	PBグループ	—			
	東京山の手	4	75.72	68	70	2	山の手西グループ	77.08					
	東京成城新	4	76.12	43	42	-1							
	東京青山	3	82.00	31	34	3							
	東京自由が丘	4	81.96	20	19	-1							
	東京世田谷中央	4	72.83	32	35	3							

編集後記

ガバナーの情報発信としての紙ベースのガバナー月信、皆様から寄稿いただき第2750地区の情報交換・情報共有の源としてのIT版(ホームページ)とのコンビネーションでの新たな形でスタートした当委員会も6月号の発行を残すのみとなりました。

2008-09年度 ガバナー月信・IT委員会 副委員長(月信担当) 浅見 省三(東京立川こぶしRC)

1年間、森本委員長を筆頭に活動してまいりましたが、残る6月号・年次報告書と委員会一同さらに努力いたします。

ぜひとも皆様のご協力のほどお願いいたします。

国際ロータリー第2750地区 2008-09年 ガバナー 新藤 信之
〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F 電話 03-3436-2750 FAX 03-5472-2750

Rotary International District 2750 2008-09 Governor Nobuyuki Shindo
KOKURYU SHIBA-KOEN BLDG. 3F, 2-6-15 SHIBA-KOEN, MINATO-KU, TOKYO, JAPAN 105-0011 PHONE 03-3436-2750 FAX 03-5472-2750

発行：ガバナー 新藤 信之(2008-09) © Nobuyuki Shindo 2008

編集・制作：ガバナー月信・IT委員会委員長 森本 行俊 副委員長(ガバナー月信担当) 浅見 省三
竹平 時彦 中野 博義 田辺 克彦 松田 美房 清野 修一 坂場 一隆 渡辺 卓美 山見 真弘 木村 清信 高柳 数利

ガバナー月信・IT委員会副委員長(IT担当)：河村 勝久

ホームページアドレス

<http://www.ri2750.org/>